

今年も残すところあとわずかですが、2014年は私たちが木のかたまりの正多面体模型を作り始めてからちょうど10年の節目の年に当たります。それを記念するかのようないろんな出来事が重なりました。

一つは、12月上旬に東京で開催された「科学の甲子園ジュニア」第2回全国大会の筆記競技の教材として活用されたことです。もう一つは、イメージミッション木鏡社の取り扱いによって、来年3月からオープンする伊勢丹本店と三越日本橋店での「算数のたのしい玩具」という売り場に置かれることになったことです。

また、今年からアメリカのAmazonでも買えるようになりましたが、これはBridgesという数学&アートの国際会議の中心メンバーであるロバート・ファタウさんの協力によるものです。

木製の正多面体模型の存在意義は、紙模型のかわりをするしっかりしたものということにだけあるのではないと思っています。展開図から組み立てた紙模型やプラ模型からは思いつくことのできない作り方、切り出し方に関心を持って観ていただくことにこそあると思います。その意味でも、NPO 法人科学協力学際センターと日本数学協会福島支部の五輪先生のご支援によって、震災被災地の仙台高専と福島西高校において、発泡スチロールカッターを使った特別授業を組んでいただけたことはじつに価値あることだとおもいます。コンピュータゲームが子供たちの遊びの中心になって以降、手作り玩具はおろかプラモデルすら作ったことのない子供たちが大半になったそうですが、科学への興味関心にはモノづくりの体験がベースにあることはもっと重視されるべきではないでしょうか。

全国すべての中学校に木製正多面体模型を贈ろう、と呼びかけてから8年になりました。東京理科大学・数学体験館の秋山仁先生はじめたくさんの方々のご協力をいただいて、数えてみるとこれまでに1300セット以上を寄贈してきました。1万1千校の中学校にとってはまだまだ決して十分な数とは言えませんが、もしこの模型全てが十全に活用され続けたとしたら、その効果は想像を超えるものがあるに違いありません。

そのためにも、多面体の美しさ、その作り方の不思議さ、楽しさ、そして作り方の数理の美しさを伝えていく活動を継続していきたいと、思いを新たにしています。